

投資家向け説明会

平成30年6月

日産車体株式会社

1. ご挨拶	<p>それでは、平成29年4月1日から、平成30年3月31日までの、事業報告の内容、連結計算書類の内容につきましてご報告を申し上げます。</p> <p>まず、企業集団の現況に関する事項のうち、事業の経過及びその成果につきましてご説明を申し上げます。</p>
2. 企業集団の現況	<p>当連結会計年度のわが国経済は、世界的な景気回復による企業業績や、雇用環境の改善に伴い、引き続き緩やかな回復基調で推移致しました。</p> <p>米国経済は、堅調な株高や、減税効果による明るい兆しはあるものの、地政学的リスクや通商政策、中国を始めとするアジア新興国の景気減速が、懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況にあります。</p>
売上	<p>このような経済情勢の下、当社が日産自動車株式会社から受注しております自動車は、北米向け「アルマーダ」、北米向け「インフィニティQX80」の需要が増加したものの、『完成検査工程における不適切な取扱い』を受け、10月中旬から11月上旬の間に、国内市場向け車両を生産停止したこと、及び11月上旬の生産再開以降、完成検査工程の改善と、生産運営の安定化に向けて、生産工程のラインスピードを通常速度よりも落とした運営を行ったことなどにより大きく減産となりました。</p>
売上高	<p>その結果、前連結会計年度と比べ、売上台数は、7.9%減少の21万2千198台、売上高は、車種構成の変動などもあり、1.3%減少の5千586億円となりました。</p>
損益	<p>次に、損益面でございますが、売上台数減少の影響などにより、営業利益は、前連結会計年度と比べ、108億円の減少の13億円、経常利益は、17億円となりました。</p> <p>また、親会社株主に帰属する、当期純損益は、「リコール関連費用」43億円を特別損失に計上したことなどにより、22億円の損失となりました。</p>
資金調達	<p>次に、当連結会計年度は、特記すべき資金調達は実施しておりません。</p>
設備投資	<p>続きまして、当連結会計年度の、設備投資の状況につきまして、ご報告致します。</p>

<p>連結計算書類 連結貸借 対照表概要</p>	<p>設備投資の総額は、約144億円で、主に新商品、マイナーチェンジによる商品力強化と、生産設備の合理化、厚生施設の改善、環境改善など、諸設備の充実強化に努めました。</p> <p>次に、連結計算書類でございますが、 まず、平成30年3月31日現在の連結貸借対照表の概要につきまして、ご説明を申し上げます。</p> <p>資産の部合計は、2千730億円となりました。 その内訳は、流動資産が、2千126億円、固定資産が、603億円で、214億円の減少となりました。 一方、負債の部合計は、1千113億円となりました。 その内訳は、流動負債が、969億円、固定負債が、143億円で、前期末に比べ、37億円の減少となりました。 また、純資産の部合計は、1千617億円となりました。 その内訳は、株主資本が1千633億円、その他の包括利益累計額が、マイナス15億円で、前期末に比べ、176億円の減少となりました。</p>
<p>連結損益 計算書概要</p>	<p>次に、第95期の、連結損益計算書の概要につきまして、ご説明を申し上げます。</p> <p>先ほど申し上げました、当社と連結子会社各社の事業活動の結果、当期の経常利益は、17億円となりました。</p> <p>また、特別損失は、リコール関連費用等、46億円を計上し、この結果、法人税等を差し引いた親会社株主に帰属する当期純損失は、22億円となりました。</p>
<p>3. 対処すべき 課題</p>	<p>続きまして、対処すべき課題について、ご報告致します。</p>
<p>2017 年度振り返り</p>	<p>はじめに、2017年度の振り返りについて、ご説明致します。</p> <p>2016年度に発表発売した、北米向けアルマーダの販売好調を背景に、日産車体九州の生産能力を超える台数を補うため、2017年10月から、湘南工場での並行生産を開始致しました。それに伴い、2017年度、当社の生産計画は、25万台超を見込んでおりました。</p>

	<p>しかしながら、中近東市場の長期に渡る景気低迷や当社グループの車両製造工場における完成検査問題も影響し、前年度を下回る21万台に留まりました。</p> <p>完成検査再発防止策については、工程の完全区画化、セキュリティの強化と、完成検査員の増員、育成計画など、ハードとソフトの両面での対応を進めております。</p> <p>昨年度末には、生産運営も従来のレベルに復帰し、今年度は、昨年実績を上回る24万台以上の生産台数を計画しております。</p> <p>次に、昨年度、発表発売されました主な新型車についてご紹介致します。</p> <p>上期には、エクステリアの変更と、自動ブレーキをバン全車に採用したNV350キャラバンのビッグマイナーチェンジと、最新ナビゲーションなどの新装備を追加したY62パトロールと、アルマーダのマイナーチェンジを立ち上げました。</p> <p>下期には、エクステリアの変更、最新ナビゲーションを採用したインフィニティQX80のビッグマイナーチェンジや、NV200バネットの4WDモデルなどの新型車を発表致しました。</p> <p>また、昨年10月に開催された東京モーターショーにおいて、次期型のパラメディックコンセプトカーのお披露目も致しました。</p> <p>以上が、昨年度の振り返りについてのご説明となります。</p>
2018 年度取組み	<p>引き続き、昨年から新たにスタートを切りました中期経営計画の柱に沿って、2018年度の主な取り組みについてご説明致します。</p>
商品の競争力	<p>まずは、商品の競争力からご説明致します。</p> <p>生産台数の勝ち上げについては、2022年までに1万5千台を増産することを目標に、活動を進めております。</p> <p>2018年度は、昨年度、発掘した中近東、アフリカ地域の顧客に対するフォロー活動とともに、新規顧客の発掘の継続を行います。</p>

	<p>また、今年度から中東日産を拠点とした活動に加えて、アフリカ・アセアン諸国への活動も展開してまいります。</p> <p>2011年から中期経営計画の柱に位置付け、取り組んでおりますコンバージョン売り上げ拡大は、2022年度に300億円達成を目指した活動です。</p> <p>2018年度は、新型パラメディックを計画通り、高品質な商品に仕上げることを、開発、購買、生産一体で取り組んでまいります。</p> <p>海外向け商品については、日産トレーディングと連携し、新たなビジネスの拡大を目指してまいります。</p> <p>続いて、工場の競争力についてご説明致します。</p> <p>今年度も、市場とのダイレクトコミュニケーションをさらに充実させてまいります。また、ビックマイナーなど新車立ち上がり品質については、市場に適した品質を達成できていることを生産、開発だけでなく現地スタッフを含めた最終確認を継続、強化してまいります。</p> <p>ここで、2017年度、日産圏の国内市場、初期品質評価の結果をご紹介します。</p> <p>NV150ADが2年ぶりに1位となり、昨年1位のNV200バネットが2位、さらに、F24アトラスが3位となり、当社製品がTOP3を独占する結果となりました。</p>
<p>工場の競争力</p>	<p>続いて、技術・技能の競争力です。</p> <p>2018年度は、本活動をより一層加速させてまいります。新規フレーム車の開発を中心とするものづくり技術の強化や、ワンボックス車の最適化技術、さらには、今後ますます当社製品にも装備が期待される先進ITS技術の適用など、2022年までに実現すべき技術テーマを明確にし、取り組んでまいります。また、働きやすい職場環境を目指した「人に優しいライン」を日産車体の将来のユニーク・セリング・ポイントと位置付け、作業工程の自動化への取り組みも進めてまいります。</p> <p>こちらは、今年度取り組む主な技術テーマと、今後、当社が独自技術として取り組む年度毎の課題登録状況を示しております。</p>

<p>すべての活動を 支える基盤</p>	<p>ひとつひとつ着実に将来の新型車に向けた技術を蓄積してまいります。</p> <p>最後に、すべての活動を支える基盤について、ご説明致します。</p> <p>誰もが働きやすい職場環境の実現に向けて、今年度から、男性の育児休暇取得率向上にも取り組んでまいります。年休と併用できる環境づくりや、ワークライフバランスの基本となる長時間労働の削減への取り組みなど、幅広い課題を取りあげ、方策を速やかに実行していくことで、ダイバーシティを、より一層促進してまいります。</p> <p>以上が中期経営計画に沿ったご説明となります。 対処すべき課題についてのご説明は、以上になります。</p> <p>以上、事業報告の内容、連結計算書類の内容につきまして、ご報告を致しました。</p>
<p>4. 平成30年度の 業績 見込み</p>	<p>ここで、平成30年度の当社の業績見込みにつきまして、ご説明をさせていただきます。</p> <p>まず、当社の平成30年度の売上高は、6千300億円を見込んでおります。</p> <p>また、営業利益、経常利益は、それぞれ、126億円、130億円を見込んでおり、親会社株主に帰属する、当期純利益は、87億円を見込んでおります。</p> <p>以上が、平成30年度の業績見込みでございます。</p>
<p>5. 配当について</p>	<p>なお、配当につきましては、安定した配当を継続的に行う、という配当方針に基づき、当事業年度の年間配当は、13円となります。</p> <p>また、平成30年度につきましても、同様に、年間13円を継続する予想でございます。</p>
<p>6. 閉会挨拶</p>	<p>皆様におかれましては、従来にも増した、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。</p>